

# 企業ニュース AGC

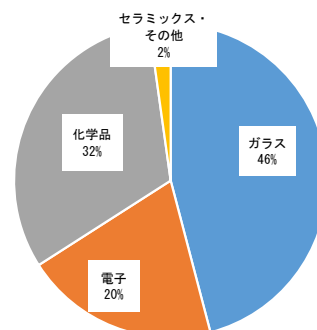
(東証1部：5201) <https://www.agc.com>

作成者：兵藤三郎

## ライフサイエンス事業も展開する素材メーカー

1907年、旭硝子創立。1944年日本化成工業と合併し、三菱化成工業に改称。1950年、企業再建整備法により三菱化成工業が3分割され、旧社名に復し再発足。2018年、現社名に変更した。祖業のガラスは建築用や自動車用向けに展開。同事業では構造改革を進めており、北米での建築用ガラス事業譲渡が発表されている。その他、液晶・有機EL用ガラス基板、半導体プロセス材料などを製造する電子、塩化ビニル（以下塩ビ）やウレタン原料、フッ素樹脂などの化学品原材料、医薬品中間体・原材料などを手掛ける化学品の領域に事業展開している。半導体プロセス材料ではEUV（極端紫外線）露光用フォトマスクブランクスが伸長している。化学品では、M&Aを含めた生産能力増強によりCDMO（医薬品開発製造受託）などのライフサイエンス事業が拡大している。

◇20.12期売上高構成比



(出所) AGC資料よりCAM作成

## 減価償却費増加を需要回復で打ち消し業績回復

21.12期・第2四半期累計（1-6月）の連結業績は、売上高が8,113億円、前年同期比24%増、営業利益が952億円、同363%増。建築用・自動車用ガラス、ライフサイエンス製品の出荷増などにより増収となった。利益面ではガラス製造設備の稼働率改善に伴う製造原価の低減も寄与した。4月に上方修正した業績予想から売上高、営業利益ともに100億円強上振れて着地した。建築用ガラスや塩化ビニル樹脂の販売価格が想定より上昇したことなどが要因となった。ただ電子は液晶ガラス基板や半導体関連製品の新規設備立ち上げに伴う減価償却費増により増収減益となった。

21.12期決算連結業績の会社予想は、売上高が1兆6,700億円、前期比18%増、営業利益が1,800億円138%増。液晶用ガラス基板の出荷が下期も堅調に推移するなど電子事業が業績をけん引する見込みだが、下期偏重型の当社の事業構造などを勘案すれば、下期の営業利益が上期比減益となる計画にはやや保守的な印象が持てよう。電子でのEUV用マスクブランクス伸長や、化学品での新型コロナワクチン（Pfizer-BioNTech向け）の原材料製造の受託などの寄与も見込めよう。

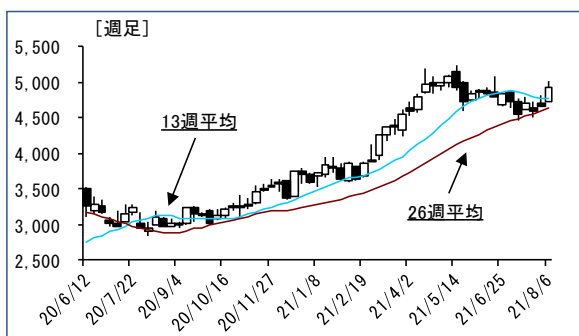
### [株価動向・投資判断]

モビリティ、エレクトロニクス、ライフサイエンスの戦略事業が順調に利益貢献している。今期事業売却による一時収益は特別配当で還元する方針を表明したことも評価したい。

<5201 AGC 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19.12	1,518,039 (▲0)	101,624 (▲16)	76,213 (▲41)	44,434 (▲50)	200.9	120.00
20.12	1,412,306 (▲7)	75,780 (▲25)	57,121 (▲25)	32,715 (▲26)	147.8	120.00
21.12 予	1,670,000 (▲18)	180,000 (▲138)	187,000 (▲227)	117,000 (▲258)	528.4	210.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価(2021/8/6)	4,920 円
年初来高値(高値日)	5,230 円(21/5/10)
同安値(安値日)	3,530 円(21/1/6)
予想P E R(21.12予)	9.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)	5,580.8 円
P B R	0.88 倍
予想配当利回り	4.27 %
(1株当たり配当金年210.00円)	
R O E(20.12)	2.9 %
発行済み株式数	22,744 万株